

28. 広報委員会

広報委員長 葛西 真治

概要

広報委員会は、国立感染症研究所の研究活動等を広く社会に公表し、理解を得ることにより開かれた研究所とすることを目的として、広報活動に関する業務を遂行している。また、広報委員会の業務を円滑に遂行するために、各部・センター・省令室から委員一名を選出し、戸山庁舎および村山庁舎でそれぞれ、広報運営委員会を組織している。広報委員会の業務を支援するために、委員の他に、再任用職員2名が委員会業務をおこなっている。委員会の庶務は調整課で処理される。

広報委員会の活動内容は以下の通りである。

- (1) 研究所概要(パンフレット、広報ビデオ、インターネットホームページを含む)等の作成およびその更新・改定の実務。
- (2) 研究所一般公開の企画・運営に関わる実務。
- (3) 市民向けセミナーの企画・運営に関わる実務。
- (4) 研究所見学・研修ならびに出前授業、および取材対応に関わる業務。
- (5) その他広報に関すること。

令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、所に来場者を迎えて対面型で行うアウトリーチ活動の実施が極めて困難となった。そこで、村山庁舎では、オンデマンド方式によりオンライン講演会を開催した。戸山庁舎では、オンラインでの一般公開をライブにて行った。

広報委員会で実施された業務の概要は以下のとおりである。

1. 武蔵村山市立雷塚小学校出前授業
2. 研修、見学および高校からの取材依頼
3. オンラインによる一般公開(村山庁舎)
4. オンラインによる一般公開(戸山庁舎)
5. 感染研市民公開講座の開催

業績

1. 武蔵村山市立雷塚小学校出前授業

雷塚小学校からの「病気の予防に関する授業」依頼に基づき、令和3年12月15日に、6年生2クラスを対象とした授業を実施した。インフルエンザ・呼吸器ウイルス研究センターの鈴木康司研究員が講師となり、ウイルスに関する講義とPCR検査の実習を行った。現地において4名の研究職員と3名の事務職員がサポート参加した。

2. 研修、見学および高校からの取材依頼

令和3年度は1件の高校の新聞委員会からの取材依頼、2件のオンライン研修、そして1件の見学があった。

(1) 神奈川県の上高等学校新聞委員会より、新型コロナウイルスを特集するにあたって取材依頼があった。10月1日に、感染症疫学センター職員3名がオンライン取材に

対応し、①新型コロナウイルスの国内感染者数の増加についての講評、②私たちは何をしなければいけないか、といった質問に対して回答した。

(2) 7月28日に、練馬区立小学校保健研究部の部長、養護教諭の約60名を対象に、「学校において注意すべき感染症」をテーマとしてオンライン研修を行った。感染症疫学センターが対応した。

(3) 11月9日に、群馬県立前橋高等学校の1年生の約40名を対象に、「新型コロナウイルスを含む感染症の予防」をテーマとしてオンライン研修を行った。感染病理部及び真菌部の同校OBが対応した。

(4) 11月12日に、兵庫県立姫路東高等学校の2年生9名が戸山庁舎を訪問、感染研の役割や感染症に関する講義を行い、研究者のキャリア形成などについて質疑応答を行うとともに、施設見学を行った。安全実験管理部とインフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センターが対応した。

3. オンラインによる一般公開(村山庁舎)

村山庁舎開設60周年特別企画と題して、村山庁舎の一般公開をオンラインで開催した。8月10日より順次、事前収録した動画を感染研YouTubeにて、事前登録者に対して限定公開した。テーマは、①感染症の近代史と感染研、②ポリオ、③インフルエンザ、④エボラウイルス病、⑤バイオセーフティ、⑥新型コロナウイルス感染症、であった。

4. オンラインによる一般公開(戸山庁舎)

「新型コロナウイルス感染症に対する感染研の取り組み」と題して、戸山庁舎一般公開をオンラインで開催した。テーマは、①コロナウイルス感染症、②新型コロナウイルスの変異ウイルス、③新型コロナウイルス感染症の疫学、④新型コロナウイルスに対する治療薬探索、⑤新型コロナウイルスに対するワクチンの有効性と安全性、であった。事前登録者に対して、Zoom webinarとYouTubeライブを併用して、生配信を行うとともに、振り返り視聴期間を設けて限定公開した。

5. 感染研市民公開講座の開催

かつて「知の市場」として開催されていた市民講座の後継企画として、国立感染症研究所感染症公開講座を開催した。前期10回、後期10回のシラバスを組み、感染症を分かりやすく国民に解説する機会を設けた。事前登録した一般市民を対象に、全20回、オンライン(Zoom webinar)で開催した。前期の副題は「感染症との闘い: 現在問題となっている感染症」、後期の副題は「感染症対策: ワクチン・治療薬を中心に」として多様な感染症を感染研職員が解説するとともに、国立感染症研究所が果たす役割について紹介した。